



平成13年度公開講座：
「元気ッ子。自然の中で楽しく学べ!!」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 越山, 賢一 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9330

平成13年度公開講座 「元気ッ子。自然の中で楽しく学べ!!」

今回の公開講座は、自然や人との直接的に触れ合うことが少なくなった子どもたちに、北海道教育大学岩見沢校の若手教官が協力して専門分野の特性を活かすことで、子供たちに恵まれた自然の中で楽しみながら学んでもらうことをメインテーマに本講座を企画した。

受講した子どもは、定員20名のところ25名の参加があり盛況に終了できた。また、子どもを対象にしたことから、受講料金を大人の半額にするための規約改正を促すなど別な意味でも画期的な公開講座となった。

第1回目は山本理人助教授（体育科）が「冒険してみないか」という、野外活動の中で「挑戦」と「協力」をメインテーマで開講した。初めて会う子どもたちをグループに分け自然のなかで身体活動を通して課題解決を行う予定であった。しかし、残念なことに、当日は雨にたたられ、体育館や廊下を利用するプログラムに変更となった。しかし子供たちは、元気いっぱいプログラムに参加し、すっかり打ち解けることができ、いつの間にか「挑戦」と「協力」というメインテーマを十分に消化できた様子であった。

第2回目は坂巻正美助教授（彫塑）の「泥んこ遊びと火遊びから宝物が生まれる」というプログラムを用意した。子供たちの手の中で立体が変化しながら「手が感じる」という経験から、「モノの形を触るように見る」「モノを空間的立体的に感じ取る」さらに「感覚的に実感したイメージを表現する」という感性の開発に導いた。大地から採掘しこねて作り上げた粘土作品が鑄型に流し込まれた作品？に出来上がったのを見て歓声をあげて楽しんだ。

第3回目は理科教育の能條歩助教授が川遊びを通し上流から下流にかけての川の様子に気づくことをテーマに大学の車を利用し遠出をした。幾春別川の源流付近の川原では石探しなどのネイチャーゲームの他、中流では石磨きなどに挑戦した。自然状態の川原はなかなか見られることが少なくなる中、天候も良く子どもたちは大いに楽しんだはずある。ただ、子どもが低学年であったことや、若干人数が多いことなどを考慮したことから、水に触れることが少なくなったことが残念であった。

最後は音楽科教育の寺田貴雄助教授が「耳で感じる自然と生活」について子どもたちと過ごした。利根別原始林に分け入り午前中は音を使ったゲームに挑戦した。水中の音の聴取やサウンドマップ作りなどを体験することができた。午後は音を楽しみながら身近な素材で6種類の楽器を作り、それらを活用してグループでアンサンブルを楽しむことまで経験できた。普段の生活で何気なく聞き漏らしている多様な音に意識を集中させたり、身近な材料で楽器（音具）を作り合奏するなど、環境への認識力や音に対する美意識を育むことを目指した体験学習であった。

（文責 越山賢一）